

## 全カリ言語B(初習言語) アンケートについて

舛谷 鋭

### 大学評価と立教全カリ

1991年、大学設置基準の「大綱化」により、一般教育・専門教育・体育その他の科目区分をしなくてもよいことになった。これは一般教育を廃止してよいと言っているわけではなく、それまで硬直化していた教養課程の科目区分に対する制限をゆるめたに過ぎず、むしろ教養教育の重要さが再三指摘されてきている。この10年間、多くの大学で行われた一般教育の解体は誤解とも言えるが、そうした中、立教大学は全カリによって、日本版リベラル・アーツ・カレッジのモデルとなった。

昨今、同様の事態が発生している。国立大学で2001年から開始されている大学の第三者評価がそれである。1999年10月の大学審議会による「二十一世紀の大学像と今後の改革方策について」答申に含まれる「評価システムの確立」提案が発端だが、提言を受けた文部省(当時)は既存の大学共同利用機関から学位授与機構(当時)を選び、2001年に大学評価・学位授与機構と名称変更し、第三者評価機関とし

て再編した。

大学の第三者評価については、当初国公立の区別はなかったが、大学審議会の審議の過程で、私学それぞれの建学の精神を重視し、一律評価を避けるため、「第三者機関による評価については、その主たる対象を国立大学とし、公私立大学については、設置者である地方公共団体や学校法人の希望により評価を受けることが出来る」とすることが適当である」と一歩退いた提言となった。

また、大学評価・学位授与機構が行う評価の対象として、「当分の間、私立大学に関わる国立学校設置法第9条の4第1項第1号に規定する評価を行わないものとする」(国立学校設置法第55条付則6)こととなった。

立教大学の評価システムについてはどうか。全学共通カリキュラム言語教育科目では、1997年の発足当初から授業評価が織り込み済みであり、すでに7年におよぶ蓄積がある。

### 全カリ言語科目アンケートの位置付け

立教大学の教養教育改革についての

発信の書である『立教大学全カリのすべて』には、「カリキュラム改革は、随時その効果を確認しながら進めていく必要があるが、そのための学生や授業担当者に対するアンケート調査にも、全カリセンターは積極的に取り組んできた。特に、言語教育の必修科目においては、各学期末に実施される統一テストや授業の場を借りて調査が行われ、学生によるカリキュラム評価や授業評価のデータが大量に蓄積され、既にカリキュラムの手直しにも利用されてきている。(p.32)」という記述が見られる。また、同書「6-3.パブリックリレーションズ」として、カリキュラム改善とともに、授業評価アンケートの実施と公表が、全カ리를全学（ひいては全国？）に周知せしめる重要な手だてとなっている点が早くも指摘されている。(p.186)

こうした学生による評価をカリキュラム改善に活かそうという「企業風土」は随所に見られ、全カリ機関紙『全カリニューズレター』には、言語教育科目の一斉アンケートだけでなく、自由選択科目で記述式アンケートによって収集された、「学生の声」を掲載する試みが行われたこともあった。（『全カリニューズレター』9）

同様に全カリ言語教育科目の「結果」からのフィードバック姿勢を示すものとして、単位修得率情報の共有がある。

全カリ事務室によって半期毎に作成される「言語教育科目別履修者数・合

格者数」は、言語構想小委員会などの会議体において個別クラス毎の数値に至るまで公表され、専門委員による分析、報告も席上で行われる。また、それらは言語教育研究室主任によって各教育研究室に持ち帰られ、研究室会議を通じて共有されている。

前述のような大学評価の要請により、多くの大学で授業評価アンケートが導入されているが、中には外部評価のためだけにはじめ、すでに形骸化したアンケートもあるというが、全カリ言語の現状を見る限り、そうした危惧は少ないだろう。

### アンケート集計と開示範囲

全カリ言語に関するアンケートは、発足時からカリキュラム改善のために行われているもので、昨今流行の外部評価のためだけのアンケートとは一線を画する。しかし、同時に外部評価にも耐えるよう、体裁を整えることは必要である。そこで2003年度から、これまで教務事務センターの手をわずらわせていた集計およびフィードバック資料の作成を外注し、内製では限界のあったレイアウト、グラフ化等について見直しをはじめた。また、アンケートの封入は従来全カリ事務室が行っていたが、あわせて外注し、事務負担の軽減をはかることになった。

当時、英語以外の言語教育科目担当の専門委員であり、初習言語教育研究室主任会の座長であった筆者は、言語

B アンケートについて、外注候補の複数の業者と打ち合わせを行い、その過程でフィードバック資料について、表：アンケート結果レポート（中国語3A2法3）のような帯グラフ、表、棒グラフ、レーダーチャートを組み合わせたレイアウトを決定した。レーダーチャートについては、当初教員の個人評価を連想させるものとの危惧もあったが、初習言語クラスで1クラスを2名の教員で担当する場合があります、教員個人でなくクラス毎にアンケートを行っていることから、2003年度後期からは付加することになった。その結果、教員からは自己評価がしやすいと好評であった。さらに、プリントアウトと生データだけでなく、必要に応じて表示結果を加工できる専用ソフトとセットでデジタルデータが納入できる業者を選定した。

後述のように、質問表はすべて言語教育科目担当者が立案したもので、実感として聞きたいことを聞くという内容であり、調査技術を云々することはなく、経験主義的に項目が40余りも羅列されていた。これでは回答する学生にも負担なので、外注によるグラフ化の便にも合うよう、項目の整理を行った。あわせて、外注によって見やすくレイアウトされたアンケート結果レポートの取り扱いについても、当然再確認することとなった。

再三述べるように、言語Bアンケートは全カリ発足時からセットであり、

立教大学全学教務委員会FD専門部会で2002年度から議論されはじめた「学生による教育評価調査」とは異なった背景を持つ。よって結果の取り扱いについても、科目担当者および各教育研究室はもちろん、運営委員会や言語構想小委員会など全カリ内での共有はすでに連綿と行われてきた。しかし、自由記述とクラス毎の結果については、全カリ科目担当者を中心とするこれまでの開示範囲から、全学教員、学生、職員および学外に開示範囲を広げることに對し、強い拒否反応があった。全国的に見ても、全面的な情報公開に値する語学教育カリキュラムとその運営結果であると今も筆者は信じるが、前述の「学生による教育評価調査」の扱いの推移と合わせ、今後の議論を待ちたい。

他大学の事例からも明らかのように、アンケートは実施前に開示範囲を明示することが必須である。しかし、前段で述べたように、全カリアンケートは開示範囲について議論中である。そこで、本稿では表：アンケート結果レポート（中国語3A2法3）として掲載した筆者個人のクラス（2003年度後期）のデータを示すに留めたい。

## アンケートの実施概要

言語B科目に関するアンケートは各セメスター末2週間の授業中に、各クラスで1回実施されている。質問はマークシートと自由記述にわかれる。

調査対象は言語B履修者全員で、

2003年度は前期17クラス(約800名)、後期216クラス(約9200名)に上った。

実施上の問題点としては、コースが別でも種類のアンケート用紙で行っているため、受けていないコースの設問への解答ミスが多発する。これを完全になくすためには、コース毎の質問用紙に改める必要があるだろう。また、他大学ではアンケート時に教員が退席し、その場で指名された学生がアンケート回収、事務への届け出を行う形式を採用していることが多い。現在授業中にクラス担当者自身が配布、回答中に在室、回収まで行っている形式は、見直す必要があるだろう。さらに、担当者毎の最終評価試験と同時に行った場合、試験用紙に自由記述欄を設けている教員も少なくなく、「言語B科目に関するアンケート」の自由記述欄に再度記入する学生が減ることは事実だろう。

### アンケートの調査内容

言語Bでは、言語A(英語)が行っているコースごとのカリキュラムに関するアンケートとは、質問表も項目も全く別建てで行っている。英語ではあわせて教員毎の授業評価アンケートを行っているが、言語Bでは実施していない。

質問表はそのときどきの主任会を中心に、すなわち科目担当者自身の手で作成されてきた。前述のような問題点もあったが、経年比較の要請により、項目の手直しは最小限に留められてきた。しかし、過去の結果が利用しやす

いかたちで保存されていなかったことが判明し、外注を期に言語教育科目担当の専門委員を中心に、思い切って項目を整理、圧縮した。

2002年度までのアンケートでは、表：言語B科目に関するアンケート(2年後期用)旧のように、40以上の質問項目があった。それらは、授業の進度、内容などの教員(授業運営)について、会話、文法、発音などシラバス(教育目的)について、予・復習、参加状況など学生個人について、ペアクラスなど言語履修システムについての評価に大別できた。2003年度からの新アンケートは表：言語B科目に関するアンケート(2年後期用)新の通りだが、項目の整理のほか、結果の数値化がしやすいようマーク用の各質問に、a:とてもそう思う/b:そう思う/c:どちらともいえない/d:あまりそう思わない/e:そう思わない、の5段階で答えてもらう、他の項目と相関を取るために満足度を聞く項目を加える、などの改定を行った。

### アンケート所見の収集

2003年度からは、全学の「学生による教育評価調査」に合わせ、各教育研究室からアンケートへの所見を収集することにした。2003年度前期アンケートがその最初の試みとなったが、教育研究室主任からのコメントを一覧すると、特に設問「ネイティブ教員からの授業を受けられてよかった」について

の所見が共通して見られた。ドイツ語、中国語では日本人教員担当クラスとネイティブ教員担当の差、特に後者への学生の評価を確認したが、フランス語では、COC(コミュニケーション)クラスでも、ネイティブ、非ネイティブの混成担当クラスがあるので、問いとして不適切との意見が示された。また、スペイン語では会話、コミュニケーション面で、ネイティブ教員との接触を通して学んだことへの満足度が高い一方、聴解力・音声面でネイティブ教員であるのに満足度が低い、という結果を読み取っている。必修科目修了後の継続学習については、継続には消極的だが、自由選択科目の履修の意思と留学等に対する関心の相関性が高いことがスペイン語から指摘されているが、これは各言語共通して言えることであろう。

このように、各言語教育研究室からの所見を集めてみると、言語毎のカリキュラムや教育観の差が顕著にあらわれ、改めて多様性の中の統一を再認識させられる結果となった。

次に、2003年度後期アンケートについてだが、後期終了時の実施のため、年度の切れ目に当たり、専門委員、教育研究室主任の入れ替わりもあり、再度仕切り直しとなった感がある。前期は各教育研究室からの所見が自由回答に近く、意見を引き出しにくかったという反省もあり、後期は1.言語教育に対する意識と実態(学生側)、2.言語教育に対する評価(教員側)という2点にしば

ってコメントを収集した。各言語教育研究室の所見の要約は以下の通りである。なお、文責はすべて筆者にある。

#### ○ドイツ語

1. コース別に見て、1年次ではCOCクラスの方が評価が高い。総合コースが上回るのは文法・表現の仕組みの理解のみである。COCクラスは留学など現地学習への意欲が高く、授業の目標が達成されている。2年次ではLTCクラスへの評価がずば抜けて高い。また、COCは発音、会話、リスニングで、LTCは文法・表現の理解、文章の読解で高い評価を受けている。
2. 現在の授業形式(リレー式、ペアクラス)への評価が高い。

#### ○フランス語

1. 教学内容、技術への評価が比較的高い。話す聴くに関するの困難が、特に1年次に多い。2年次では特にCOCクラスで改善が見られる。
2. 早期段階の発音指導を工夫するとともに、学習意欲を高めることが望まれる。

#### ○スペイン語

1. 「予習して授業に臨んでいた」と「辞書を引きながら教材・教科書程度の文章が読めるようになった」に正の相関が見られず不可解。コース間の評価の差は少ない。
2. 1年次の方が自由選択科目の履修に積極的である。武蔵野新座キャンパス(MNC)を除くと学年進捗と

ともに意欲が減退する。MNCは継続学習への意欲はあるが（受け皿がなく）実際の履修者数に反映されていない。

#### ○中国語

1. 教員の対応，教学技術についての不満は少ないが，学生の自発的学習は促せなかった。
2. 現在の授業形式（リレー式，ペアクラス）について一定の評価があるが，コース間の評価の差は少ない

#### ○朝鮮語

1. 授業のレベルやペースを多少高めに設定しているが，「どちらともいえない」（ちょうどよい）という評価が多かった。授業進度が早いと評価される MNC1 年次クラスが，満足度が高く，ネイティブ教員への支持を現しているのではないか。
2. 発音や読み方および文法・表現の仕組みの理解の評価が高いのは意図通りである。

### アンケート結果から読み取れるもの

言語 B 科目に関するアンケートは，表：言語 B 科目に関するアンケート（2 年後期用）新の通り，C，E，F が共通設問であり，その他はコース別か言語別の設問である。表：アンケート結果レポート（中国語 3A2 法 3）は，左上の帯グラフがそれぞれの回答の比率を，中央の表が項目毎の回答実数を，右上の棒グラフが全体（棒）とクラス平均（黒点）の差を現している。また，下の

レーダーチャートは四技能と教学技術，教学内容，自習について，それぞれの項目をまとめて示したものである。

筆者のクラスは AV 教材を多用し，聞き取り中心に行ったため，7. リスニングと 14. 音声・映像教材利用について比較的高い評価を受けている。反面，文法・表現の仕組みや文章読解の評価は平均より低く，自習意欲の低さも合わせ，今後の授業の改善方向が見て取れた。具体的には読み書きする宿題を出すことを考えている。ここに掲載していないが，同じく 3A2 クラスで，コンピュータ教室で e-Learning 教材を用いた授業を展開したが，掲載クラスと異なり，学生の評価では四技能ともバランスよく力がついたと感じてくれたようだ。ただし，自習意欲は掲載クラスよりさらに低く，学習の密度が高すぎたため，授業の中で完結してしまったのではないかとと思われる。

このような機器利用や教室等設備と満足度，意欲は当然関連するが，一般教室と LL 教室，黒板とホワイトボード，池袋キャンパス内ではスタッキングチェア教室である 5 号館とその他の教室，また，池袋キャンパスと新座キャンパスの差異など，教員が実感として持っている教室毎の授業のしやすさ，しにくさと学生の実感の比較については今後の検証課題である。

アンケート結果を通して見て感じたことは，同じ教員が同一カリキュラムで行なっても違う評価が出ている場合

があるということである。一般に参加型の授業は満足度が高いと言われるが、言語教育科目、特に統一シラバスの場合、同じ教員がクラス毎に授業スタイルを大きく変えていることは少ないだろう。考えられるのは2年次科目で履修希望によってクラス編制している場合で、希望充足率が著しく低いクラスが出来上がるケースがあり、そうしたクラスの運営の困難さを示しているのではないだろうか。このような一概に数値の高下で比較できない点については、後述するアンケートの活用とも関連すると思われる。

#### 授業評価アンケートをどう活かすか

授業評価アンケートをどう活かすか。この点について、具体的にはっきりしたアイデアをもっている大学はほとんどないという見通しもある。(『大学教育と授業評価を考えるフォーラム報告書』大東文化大学, 2003, p.60)

それでは、アンケートの結果はどのようにカリキュラムに反映されるべきだろうか。たとえば、一人の教員が週2回、同じ学生の授業を担当する「ペアクラス」であるが、全カリ発足前にパイロットプログラムが実施され、それが評価されることで本格導入が決まった経緯がある。評価すなわちアンケートは、カリキュラム改訂の道筋において利用不可欠ではないだろうか。

最後に、アンケートは誰のためのものか問いたい。前述のレイアウト改訂

の自身の努力と矛盾するが、自分のクラスのアンケート結果はどんなにわかりにくいレイアウトでも必死に読み取ろうとするものである。学生の評価は教員のクラス運営上の実感をときとして信任し、ときとして裏切ってくれる。それらに真摯に耳を傾け続ける限り、授業評価は教員自身のためのものであり、それ以上のものでもそれ以下のものでもないだろう。

#### 参考文献

青木宗也「大学基準協会による大学評価と自己点検・評価」『大学時報』1996.1

井上理「学生による授業評価調査」『大学時報』2001.11

喜多村和之「大学評価の時代と私学」『大学時報』1998.11

木村孟「急がれる包括的評価システムの確立」『大学時報』2002.5

小林純「英語アンケートの結果集計：分析私論」『全カリニューズレター』8, 1998.6

全カリの記録編集委員会『立教大学全カリのすべて』東信堂, 2001

大東文化大学「学生による授業評価」実施委員会『大学教育と授業評価を考えるフォーラム報告書』大東文化大学, 2003

ますたに さとし  
(全カリ中国語科目担当、  
本学社会学部助教)

## 表：言語 B 科目に関するアンケート（2年後期用）旧

立教大学全学共通カリキュラム  
初習言語科目に関するアンケート（2年生用）

- \* 前期末（COC/独 LTC クラス）に実施
  - \* 後期末（LCC/新座/露朝/独 COC 文/独 LTC 文クラス）に実施
- 

このアンケートは、より良い初習言語教育を目指すための参考にするものです。回答の内容があなたの成績評価等に影響することは一切ありませんので、あなたの率直な意見をお寄せ下さるよう、ご協力をお願いします。

回答には鉛筆またはシャープペンシルを使用して下さい。

最初に、マークシート用紙に学生番号の上3ケタのみを記入して下さい。（学部毎の集計のために必要です。氏名を記入する必要はありません）。

それぞれの事項についての判断を次の a～e から選択し、マークして下さい。（選択肢の内容がこれと異なる設問については、その都度指示します）。

- a：強くそう思う    b：そう思う    c：どちらとも言えない  
d：そう思わない    e：全くそう思わない

- 次の 1. ～ 3. は池袋 COC/ドイツ語 LTC クラスの人のみ答えて下さい
  1. 週 2 回、同じテーマ・教材で授業が受けられるのが良い
  2. (週 2 回同一教員の授業を受けた人のみ回答して下さい)  
週 2 回同じ教員の授業を受けられて良かった
  3. (週 2 回別々の教員の授業を受けた人のみ回答して下さい)  
週 2 回別々の教員の授業を受けられて良かった
- 次の 4. は池袋 LCC クラス、新座キャンパスの人のみ回答して下さい
  4. 週 1 回の授業で十分な学習が出来た
- 2 年次の授業について（全員回答して下さい）
  5. 馴染みやすい教材で無理なく学習に入ることができた
  6. 発音や読み方がしっかり身についた
  7. 文法・表現の仕組みが理解できるようになった
  8. 辞書を引きながら少し込み入った文章の読解ができるようになった
  9. 作文力が身に付いた
  10. 会話力が身に付いた
  11. 語彙力が身に付いた
  12. リスニングが上達した
  13. 学生の質問に対して教員は的確な対応をしていた
  14. 説明や板書はポイントが押さえられていて充実していた
  15. 音声・映像教材が有効に活用されていた
  16. クラスはほど良い人数で、積極的に授業に参加できた
  17. シラバスの情報が役に立った



- 18. 1年次の内容は2年次の基礎として十分だった
- 19. 具体的に興味関心のあるテーマが見つかった
- 20. 授業中に既習事項の復習がしっかりできた
- 21. 授業のペースはどうでしたか
  - a: 速すぎた    b: 少し速かった    c: どちらとも言えない
  - d: 少し遅かった    e: 遅すぎた
- 22. 教材の難易度はどうでしたか
  - a: 難しすぎた    b: 少し難しかった    c: どちらとも言えない
  - d: 少し易しかった    e: 易しすぎた

・次の23. ~ 24. は文・法・経・社会学部のドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語の履修者のみ回答して下さい

- 23. コース分けの時期はいつ頃が良いと思いますか?
  - a: 1年前期から    b: 1年後期から    c: 2年前期から
  - d: 2年後期から    e: 1・2年次の必修では必要ない
- 24. コース選択結果に満足していますか?
  - a: 非常に不満である    b: 少し不満である    c. どちらとも言えない
  - d. 満足している    e. 非常に満足している

・次の25. ~ 35. はCOCクラスの人のみ回答して下さい

- 25. ネイティブ教員からの授業を受けられて良かった
- 26. ネイティブスピーカーと十分コミュニケーションできるようになった
- 27. ネイティブ教員や音声教材の言葉が確実に聞き取れるようになった
- 28. 旅行に行って困らないくらいの会話力が身についた
- 29. 会話とうまく連携した形で文法や読解などもしっかり学べた
- 30. その言語や言語圏の文化に対する理解が深まった
- 31. 新聞・雑誌やホームページの記事の読解ができるようになった
- 32. ニュースや映画の聞き取りができるようになった
- 33. 簡単なプレゼンテーションができるようになった
- 34. 日記や手紙が書けるようになった
- 35. その外国語に対してすぐに反応できるようになった

・必修科目終了後の継続学習について

- 36. 自由選択科目（セミナー、強化、情報処理）の履修をした
- 37. サマースクールなどの短期語学研修に参加したい
- 38. 1年以上の長期留学について検討している

・あなた自身について

- 41. 予習をして授業に臨んでいた
- 42. 定期的な復習をしていた
- 43. 授業中積極的に質問・発言していた
- 44. 授業外でも学習の機会が多くあった
- 45. 課外でネイティブと触れる機会が多くあった

以上

表：言語 B 科目に関するアンケート（2 年後期用）新

立教大学全学共通カリキュラム  
言語 B 科目に関するアンケート（2 年次生後期用）

このアンケートは、より良い言語 B 教育を目指すための参考にするものです。回答の内容があなたの成績評価等に影響することは一切ありませんので、あなたの率直な意見をお寄せ下さるよう、ご協力をお願いします。

回答には鉛筆またはシャープペンシルを使用して下さい。

最初に、マークシート用紙に学生番号の上 3 ケタのみを記入して下さい。  
(学部毎の集計のために必要です。氏名を記入する必要はありません)。

それぞれの事項についての判断を次の a～e から選択し、マークして下さい。  
(選択肢の内容がこれと異なる設問については、その都度指示します)。

- a：とてもそう思う    b：そう思う    c：どちらともいえない  
d：あまりそう思わない    e：そう思わない

- A. 次の 1～3 は池袋 COC/ドイツ語 LTC クラスの人のみ答えて下さい
- 週 2 回、同じテーマ・教材で授業が受けられるのが良い
  - (同一教員クラスのみ回答して下さい)  
週 2 回、同じ教員の授業を受けられて良かった
  - (別々の教員のクラスのみ回答して下さい)  
週 2 回、別々の教員の授業を受けられて良かった
- B. 次の 4 は池袋 LCC クラスと武蔵野新座キャンパスの人のみ答えて下さい
- 週 1 回の授業で十分な学習ができた
- C. 2 年次の授業について（全員回答して下さい）
- 発音や読み方がしっかり身についた
  - 会話力が身についた
  - リスニングが上達した
  - 文法・表現の仕組みが理解できるようになった
  - 語彙力が身についた
  - 辞書を引きながら教材・教科書程度の文章が読めるようになった
  - 作文力が身についた
  - 教員は学生の質問に的確な答えをしていた
  - 教員は要点を押さえた説明や板書をしていた
  - 音声・映像教材が有効に活用されていた
  - 授業のペースはどうでしたか  
a：速すぎた    b：ちょうどよい    c：遅すぎた
  - 授業中に既習事項の復習もしっかりできた
  - 教材・教科書の難易度はどうでしたか  
a：難しすぎた    b：ちょうどよい    c：やさしすぎた
  - クラスの人数はどうでしたか  
a：多すぎた    b：ちょうどよい    c：少なすぎた

19. シラバス（全カリ履修要項の講義内容）の情報は役に立った
20. 総合的に見て、この授業に満足している

次の 21 はドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語・朝鮮語の履修者のみ答えて下さい

21. 2 年次の授業では 1 年次の学習内容が十分活かされた

次の 22 は中国語の履修者のみ答えて下さい

22. 今学期の授業では前学期までの学習内容が十分活かされた

D. 次の 23. ～ 24. は文・法・経・社会学部のドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語の履修者のみ答えて下さい

23. コース分けの時期はいつが良いと思いますか  
a : 1 年前期から    b : 1 年後期から    c : 2 年前期から  
d : 2 年後期から    e : 1・2 年次の必修では必要ない
24. コース選択結果に満足している

E. あなた自身について（全員回答してください）

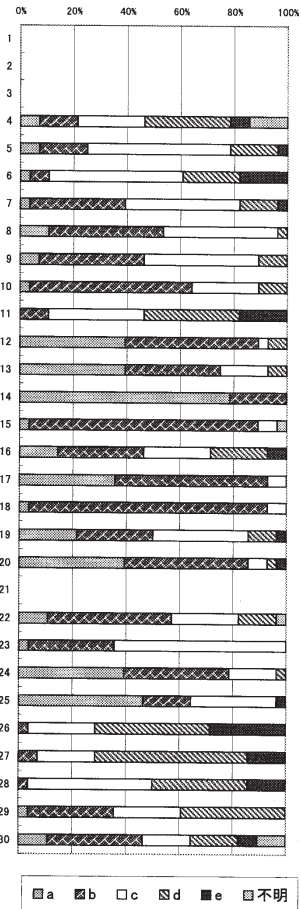
25. この授業で、あなたは何回欠席しましたか  
a : 0 回    b : 1 回    c : 2～3 回    d : 4～5 回    e : 6 回以上
26. 予習して授業に臨んでいた
27. 定期的な復習をしていた
28. 授業中積極的に質問・発言した
29. 自由選択科目の履修をしたい
30. 現地での短期研修や留学に行ってみた

F. 最後に、1 年間の授業をふりかえてみて、授業の内容・進度、教材、教室環境、時間割などについて具体的な感想があれば、自由に書いてください。  
（マークシート回答用紙の裏面に書いて下さい）。

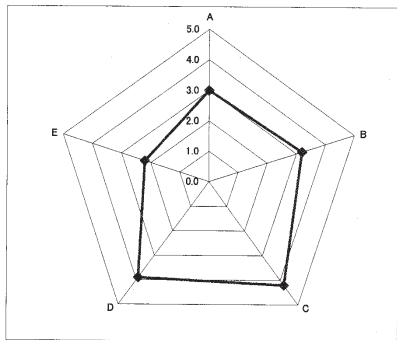
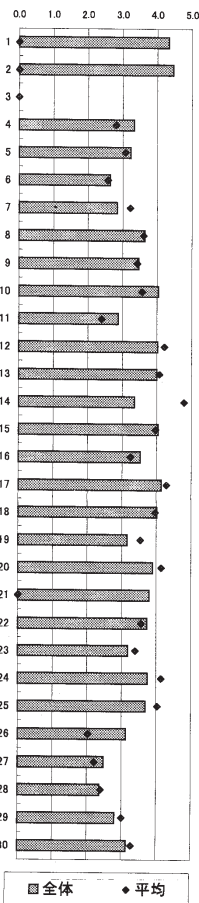
以上、ご協力ありがとうございました。

アンケート結果レポート 言語B(クラス別)

2年生後期用  
中国語3A2 法3



	Total	a	b	c	d	e	不明	平均	全体		
		5	4	3	2	1					
A	1	0	0	0	0	0	0	0.0	4.3		
	2	0	0	0	0	0	0	0.0	4.5		
	3	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0		
B	4	28	2	4	7	9	2	4	2.8	3.3	
	C	5	28	2	5	15	5	1	0	3.1	3.2
		6	28	1	2	14	6	5	0	2.6	2.6
7		28	1	10	12	4	1	0	3.2	2.8	
8	8	28	3	12	12	1	0	0	3.6	3.6	
	9	28	2	11	12	3	0	0	3.4	3.5	
	10	28	1	17	7	3	0	0	3.6	4.0	
11	11	28	0	3	10	10	5	0	2.4	2.9	
	12	28	11	14	1	2	0	0	4.2	4.0	
	13	28	11	10	5	2	0	0	4.1	4.0	
14	14	28	22	6	0	0	0	0	4.8	3.4	
	15	28	1	24	2	0	0	1	4.0	4.0	
	16	28	4	9	7	6	2	0	3.3	3.5	
17	17	28	10	16	2	0	0	0	4.3	4.1	
	18	28	1	25	2	0	0	0	4.0	4.0	
	19	28	6	8	10	3	1	0	3.5	3.2	
20	20	28	11	13	2	1	1	0	4.1	3.9	
	21	0	0	0	0	0	0	0	0.0	3.8	
	22	28	3	13	7	4	0	1	3.6	3.7	
D	23	28	1	9	18	0	0	0	3.4	3.2	
	24	28	11	11	5	1	0	0	4.1	3.8	
E	25	28	13	5	9	0	1	0	4.0	3.7	
	26	28	0	1	7	12	8	0	2.0	3.1	
	27	28	0	2	6	16	4	0	2.2	2.5	
28	28	0	1	13	10	4	0	2.4	2.4		
29	28	1	9	7	11	0	0	3.0	2.8		
30	28	3	10	5	5	2	3	3.3	3.1		



A	3.0	話す・聴く(設問4～設問6)
B	3.2	読む・書く(設問7～設問10)
C	4.2	教学技術(設問11～設問15)
D	3.9	教学内容(設問16～設問19)
E	2.2	自習(設問28～設問30)